

# EM WEST

両国エンジニアの  
夜明けは近いぜよ

# 始動!

FORSEER  
FEBRUARY 2010

◎特集

2010 THE 新春放談 座談会

# 「EM WESTは如何にして生まれ、どこへ向かうのか？」

EM WEST編集部……………04

◎一般記事

## 岡島幸男、福井と東京で自在に働く

岡島幸男……………06

## プロジェクトマネージャー・リーダーのための 「援助技術論」 ほそたに(や)……………08

### 虎パン突撃インタビュー！

要求開発で企業改革って、何やってるんやろか？

虎パン……………10

## 愛!? Housework Facilitationのススメ 東秀和……………12

## 西日本コミュニティ巡り

PFPQ / てふかん / すくすくスクラム瀬戸内……………14

◎連載

ほそたに(あ)直伝! ITエンジニアのためのアロマ講座 ほそたに(あ)……………09



## 組込み、アジャイルに攻略中

Linux、Android、RTOS、  
AUTOSAR コンサルティング、  
開発支援

情報化技術を通じて社会と共生する  
 株式会社 永和システムマネジメント  
<http://www.esm.co.jp/>  
福井県福井市問屋町3-111  
0776-25-8490

『システム開発現場の  
ファシリテーション』  
絶賛発売中!!!  
(技術評論社、ISBN-13 : 978-4774133652)



『みかん』や『はっさく』が  
ご入用の方  
こちらまで!  
<http://twitter.com/oyukun>




今年の  
ゴールデンウィークは  
関西に帰省するぞと  
思っていますので、

飲みに行きまじろう  
(誰かない?)  
@fkino




From East to West

東京から愛媛に  
引越してきました。  
西でもよろしく  
お願いします!!

twitter : kkd  
blog : <http://giantech.jp/blog>  
presentations : <http://www.slideshare.net/kkd>

Agile Software  
Development Coach  
Certified Scrum Master



懸田 剛  
Takeshi Kakeda

## Messages from the Editors

### ●てつ。編集長

私からはただ一言、「Vol.1に向けて広告募集中です! 広告ください!」そして、Vol.0に広告を出してくださったスポンサー各位に感謝です!

### ●はっさく副編集長

スポンサーの方、記事を書いてくださった方、てつ。編集長のみごとな仕事さばきで、形になったことをうれしく思います。次回に向けて頑張ります!

### ●ほそたに(や)編集部員

てつ。編集長を中心に2009年11月頃からの怒涛の追い込みによりなんとか形になりました。良く言えば締め切り間際の生産性が高いということで^^。

### ●なおまる編集部員

いいだしっぺの一人なのですが、てつ。編集長に丸投げだったような。。記念すべきEM WESTが立ち上がったことに感涙でございます! 次も頑張るぞお!

リーダーはメンバーの  
「0.5歩先」を歩こう!

先に行かない。  
離れ過ぎない。

柴田浩太郎  
([gkohtaro@gmail.com](mailto:gkohtaro@gmail.com))



©イラストレーター：メーパンさん

大阪エヌデエス要求開発  
実況中継

これは! ものスゴイ デザイト  
教育ガス

エンパド  
要求開発

要求開発  
実践!

NDS 要求開発 HPにて実況中継中♡  
[http://www.nds-tyo.co.jp/takumi/takumi\\_top.html](http://www.nds-tyo.co.jp/takumi/takumi_top.html)

めとする西日本でもいろいろやってんのに、まだまだPRができてないんですよ。

## トーキョーは全国区じゃない！

どこかのぱんだ EM ZEROも全国展開してるし、西日本圏の人にも結構書いてもらっているんですけどね。そこの発信ではダメだった？

つつ。それがまさにトーキョー人の発想や！（注5）僕が思うに、トーキョーの人が全国区だと思ってる活動の多く

は実は単なる「トーキョーローカル」な活動なんですよ。

ほそたに（や） そういえば大阪や地方で立ち上げるコミュニティは結構〇〇関西とか△△九州とか地域の名前を付けますけど、東京ではわざわざ□□東京とかあまり付けませんもんね。

はっさく 東京で立ち上げるものは全国区、と無意識のうち感じちゃうんでしょうかね。

なおまる 江戸時代までは日本文化は関西で作られてたのにな。ぶ。

どこかのぱんだ おおう、東京vs.各地の争いがここでも勃発かーまー、ぱんだとしてはEM WESTに続いてEM北海道とかEM東北とかEM沖縄とか、いろいろ立ち上がってくれると嬉しいですよ。EMがそのためのきっかけや場になればいいなと思うし、WESTには非常に期待しています。

注5）ぱんだはトーホグ人です。

## 記事から広告スポンサー集めまで

### 全部自前!!!（注6）

はっさく どこばんさんもたまにはいいこと言いますね（笑）。ただ、言うは易し行うは難しで、EM WESTも発行にこぎ着けるまでは結構苦労が（泣）。

どこかのぱんだ あれ？何かありましたか？

2010 THE

# EM 如何 どこへ

はっさく まず広告スポンサー集め。記事だけ書けばOKだと思っていたら、広告集めから先全部こっちでやれって言っただけじゃないですか！

つつ。 そうそう（笑）。企画とか執筆者の確保は、ある意味関西は目立ちたがりの宝庫だったから苦労しなかったけど。

ほそたに（や） うちの妻まで巻き込んで記事を書くことに（笑）。

どこかのぱんだ いや、ほら、マナスは営業力皆無だし、とかそんなことはどーでもよくて、EM WESTはEM WESTで独自にがんばっていつてもらいたいという心ですよ！西日本の良さを全開にしてね。

注6）自作自演とも言っ。

## 「どうでもいい」EM WESTの未来

つつ。 岡山いいところよーきて、皆さん、ようやくスタートしたEM WESTですけど、これからどうしていきたいですか？僕は無責任なようだけど、「どうでもいい」と思っているんですよ（注7）。我々があほしいこういうのって

てそうなるんじゃないかって、いろんな人を巻き込みながら、想像もしていなかったような展開がここから生まれる、そんな媒体にしていきたいんです。僕たちはEM WESTを作ってるんじゃないかって、EM WESTから生まれる「何か」を創っ

ているんです。

なおまる 西日本でも東京に負けず、いろいろな活動が行われていて、その波に巻き込まれていくことがエンジンアのみなさんの元気につながると信じています。もちろんEM WESTの誌面からもたくさんさんのヒントをもらうことができるんだけど、それだけでなくリアルに活動に参加してみたいな！もつともつとまわりのエンジンアと一緒に成長していきたいな！と思ってもらえて、アクションにつながるきっかけになるメディアにしていきたいなと思っています。EM WESTを手にした方は、一步を踏み出すチケットをゲットできたんだ！って思えると、なんだかいよいよ。

ほそたに（や） 記念すべきEM WEST創刊号の最初の配布がXPPJUG関西主催のXP祭り関西2010であることを嬉しく思います（注8）。EM WESTが西日本のコミュニティを繋ぐもののひとつになれば嬉しいです。いつの間にか編集メンバーになっているようなノリなので皆さん気軽にEM WESTに参加してください！

はっさく この企画も、わが社の広告費捻出も、やってみなくちやわからないところからスタートしていますし、西日本を中心に活動しているコミュニティや所属している組織の方にも身近に思ってもらえるメディアになれば最高です。そんな創刊号に関わりが持って大変光栄でした。

どこかのぱんだ みんなEM ZEROと違って崇高だ（笑）。ぜひ未永く新たな試みEM WESTを育ててやっていってください。もちろんぱんだも関わり続けるぜ!!!

注7）たぶん本音です。

注8） つつ、間に合わずに違うイベントになっていたらご愛敬。こつして座談会（風共同執筆）は終了し、編集部の方々はそのぞれの持ち場に帰って行った、か、飲みに行っただけか知らないが、ここにEM WESTは誕生した！ 本家EM ZEROの転覆を狙うWESTの動向に要注意だ！

2008年7月、エンジニアのためのオープンパーパーEM ZEROがノリと勢いだけで誕生した。東京を中心に配布されたそれは、有志の手によって全国各地に広まっていった。もちろん大阪をはじめとする西日本にも…。

だが、読者の中にはEM ZEROに納得がいかない者たちがいた。EM ZEROがあくまで関東圏、東京の話題や人間を対象としたものだったからだ(注1)。そんなEM ZEROに対抗して、どうせEM ZEROも始まりはエンジニアマインド(注2)じゃないか、というよくわからない(?)理由を付けながらEMの名を持つ新たな媒体を創り出そうと画策する面々が立ち上がった。

その名を「EM WEST編集部」と言っ。2010年1月某日、大阪某所にてEM WEST編集部は座談会を開催した(気分になった)。これは、その記録である。

注1) ちゃんと西日本圏の執筆者もいたじゃないかとかなんかこの際関係ない!  
注2) G術評論カンパニーの今は亡き商業雑誌。

## EM WEST編集長「てつ」の 特技は食いつきの早さ

どこかのぼんだ そもそも何でEM WESTを出そうと思ったのですか。結構なことなんですけども。

てつ。 なおまるさんのmixi日記からじゃないですかね?僕もちょうど西日本でおもしろいことがやりたかったからすぐに食いつきました。

なおまる。 食いつき早すぎ(笑)。以前Agile Japan(注3)というイベントの打ち上げでEM ZEROの野口編集長を口説き落とすことが発端かも…。でも、実は前からぼそたに(や)さんや、すだち師匠(注4)も野口編集長にアタックしていたみたい。みんな考えることは一緒やねえ。ぼそたに(や) そうだったかな?まあ、それは実質動いてなかったからね。

はっさく。 僕は前からEM ZEROに記事を書きたいなあと思っていたので、この企画にはすぐに乗りましたね。

## 新春放談 座談会

EM WEST編集部

# WESTは にして生まれ、 向かうのか?



## 登場人物

注3) 知る人ぞ知るアジャイル布教イベント (<http://www.agilejapan.org/>)。今年も某ーBM社を乗っ取って行われるらしい。

注4) EM ZEROの常連著者。たぶんそのうちEM WESTでも登場する(はず)。

### EM WEST独立の深いワケ

どこかのぼんだ なるほど。要は食いつきにノリと勢いだけで集まってきたってわけですね。実にEMらしいんだけど、ZEROを使わず新たにWESTを作る理由は?

なおまる。 なんとなく、東京のコミュニティは外へのPRという情報発信がうまい気がするんです。これがEM WESTを立ち上げたいな、と思った理由のひとつでもあるんだけど、時々周囲から「東京ならいろんな勉強会やコミュニティがあるけど、関西や地方ではなかなかそういうのがなくて勉強の機会がない」とか聞かえてくるんですよ。いやいやそんなことあれへんよ、と。ちゃんと探せばこんなにあるねんぞ!というのを自分なりに一覧にしたりもしたんだけど、そういうのをより広く発信したいな、と。こっぴど関西をばじ

# 岡島幸男、 福井と東京で 自在に働く

株式会社永和システムマネジメント

岡島幸男

OKAJIMA Yukio

私は福井県に本社がある永和システムマネジメントというソフトウェア会社に勤めています。交流電源の周波数は60Hzですし、福井はどちらかといえば西日本です。今回はEM WESTの「てつ。」編集長直々に、「福井はWESTですよね。WEST在住者らしい記事、書きませんか!」と、お声をかけていただきました。ありがとうございます。おかげさまで年越し執筆という貴重な体験ができました。

## 福井と東京、2つの仕事場

さて、私は普段、福井で働いていますが、年に40回以上東京に出張しています。ほぼ毎週のペースですね。ちなみに、東京で初めてお会いした方によく言われる言葉ベスト3は、「遠くて大変ですねえ」「今日いらっしゃったんですか?」「今から帰られるんですか?」です。福井から東京は3時間半程度ですから、慣れればそれほど遠くないので大丈夫ですよ。この場を借りて改めて返答しておきます。さらに、「九州は遠いですねえ」と言われることもままありますが、「いや、福岡じゃなくて福井です」とは初対面の人にはつっこみにくいので笑って流すことが多いです。

それはさておき、私が東京に出張するのはお客様との打ち合わせや、現場に常駐する開発メンバーに会うのが主な目的です。今ではマネージャですが、現場で開発をしていたころから東京にはよく行っていました。客先に常駐し

たり、東京支社で開発をしたりしていた時期もありました。このような、行ったり来たりの生活を続けてかれこれ5年以上経ちますが、結構気に入っています。東京にはおいしいラーメン店が多いですし、移動の新幹線は考え事や読書にはもってこいの時間です。他にも出張生活なりの楽しみ方はありますが、今回は福井と東京二股かけて仕事をする意義について、つらつらと語らせていただきます。

## 出張生活の苦勞あれこれ

出張ベースの開発とはいっても、仕事を福井に持ち帰る場合もままあります。そこでまず実感するのは、お客様が遠くにいるというデメリットです。デスクマーチ気味の土曜日の夜、元請けマネージャからの電話。「明日、東京に来ない?」の一言。断るわけにもいかず、日曜始発の新幹線に乗り朝10時には渋谷に到着していました。新幹線での移動中にお客様から緊急の問い合わせ電話がかかってくることもありました。他にも携帯電話を家に置き忘れたり、急に出張予定が伸びて下着をホテルで洗濯する羽目になったり…。これらは武勇伝としてはなかなかですが、東京で仕事をしていられなくてもいい苦勞です。

もう一つだけ。行ったり来たりといっても、家を2つ持てるわけではありません。東京での宿泊りはホテルかマンション・リマンションとなります。私のホ

テル暮らし最長期間は1年間強で、その間ほぼ毎週月曜に上京し金曜に福井に戻る生活を続けていました。仕事には手を抜かず臨んでいましたが、さすがに心身しんどかったです。会社からは寮(当時は寮がありました)に入ることを勧められましたが、私は固辞していました。今思うと青臭いですが、入寮することで会社に負けてしまう気がしていたのです。実は私の一番の苦勞というか問題は、会社に対する敵愾心だったのかもしれない。「自分は意に沿わない出張をしているのだ」という思いこみがネガティブさを生み、感じなくてもいい苦勞や緊張をすることになったのだと思います。

## 変化はチャンス。逃さないで

私の場合もそうでしたが、地元を離れて東京で仕事することに拒否感を持つ人は多いようです。しかし、東京で働くことは大きな転機・変化でありチャンスです。与えられた機会を逃さずのはもったいない。私が一番実感しているチャンスは「出会いの機会」です。

東京は福井に比べ格段にエンジニアの数も多くイベントやコミュニティ活動も活発です。その場でいろいろな人の話を聞くことができます。自分の考えを発表し議論することもできます。今回こうしてEM WESTに寄稿できたことも、東京で働きながら知り合った幾多の人との出会いがあったからです。これは間違いありません。

忙しくてイベントなんか行けないよ、という方もいらっしゃるでしょう。しかしよく考えてみてください。忙しいのは地元においても東京においても一緒なのです。

## ポジティブさが出会いの鍵

人生の充実度は誰と知り合えるか次第だと、いろいろな方がいろいろな場面でおっしゃっています。もちろん、私も強く同意します。しかし、私が言いたいのは「人との繋がりを作るためには東京が有利だから行きなさい」というような功利的な意味合いではありません。人との繋がりによる満足感はずいぶん味わえます。

そうではなく、出張や転勤といったあなたの環境が半強制的に変わる機会を、「人との繋がりも増えるし、チャンス!」とポジティブな態度でとらえてほしいのです。「仕事だから仕方がない」などといった会社に対する敵愾心に囚われてしまうと、新たな出会いを求め積極性を失ってしまいます。

## 文化の懸け橋という醍醐味

「出会い」とか「ポジティブ」とか連呼するとなんだか恋愛指南くさいですね。話題を変えましょう。出会いや交流はなにも社外の人だけとは限りません。同じ会社の人間との出会いや交流も大切なことです。例えば普段本社にいる人が支社で作業することになったり、部署横断での研修やプロジェクトに参加したりすることがあります。しばらく一緒に時間を過ごせば気心がしれて打ち解けてくるものですが、期間が過ぎてしまうと元通りという寂しい事態も少なくありません。離れてからも交流を継続するために、社内SNSやTwitterなどといったネットのコミュニケーション手段を活用するのも良い方法です。

しかし、本社と支社を行ったり来たりしている私は、両方のメンバーとリアルに話をする機会が多く、交流の継続という意味合いでは申し分ありません。おかげさまで福井と東京のどちらにおいても寂しい思いをすることはあり

ません。さらに、福井と東京で「二股な」立場にすることで、両方の文化の懸け橋になることもできています。部署によって仕事に対する考え方やメンバーの大事にしている価値観といった文化が異なることはあります。特に本社や支社といった地理的に離れている場合にはなおさらでしょう。

文化が違うこと自体に問題はありません。しかし私の経験では、お互いの対話が乏しい環境ではカルチャーギャップが埋まらず、人間関係上の問題(けんか)が起きてしまうことがあります。このようなとき、ギャップを埋めて問題を解決するのが私のような二股な立場の人の役割です。あまり面と向かって対話したことがない当事者の間に入り、それぞれの立場を理解した人が仲介することで、問題を解決することが可能となります。

相手をどれだけ理解できるかは、対話した時間によります。それぞれの拠点でまんべんなく時間をかけて対話できる人を増やすことは、楽しいだけでなく、文化の懸け橋という役割を担う上で有意義なことなのです。

## 自由自在になれるかはあなた次第

繰り返しになりますが、私は今では現場で開発をする役割ではありません。開発をしているメンバーに比べ自由になる時間も多いですし、出張予定も自分で立てることができます。ですから、「そんな自由自在にできるのはあなたがマネージャだからだ!」といった声も聞こえてきそうです。私もその点に関しては否定しません。ソフトウェア技術者として場所を選ばず自由自在に楽しくやるのは難しいことも経験してきました。

私の場合は10年以上かけて今の自由かつ責任ある立場になりました。その間、地元を離れることに悩みましたし、意に沿わない仕事もしてきました。転職したら状況が変わるのだろうか、と考えたこともあります。それでも今、こうして自分自身のことをネタに語れるのは、行ったり来たり暮らして出会うことができた大勢の人たちのおかげです。お客様からのお叱りの一言、憧

れの同業者からのハツとさせられる一言、上司や同僚と過ごす濃密なプロジェクトでの時間、これらが複雑に合わさって、自分に良い影響を与え続けています。でも、成長の根幹にあるのは、会社やプロジェクトといった周りの環境にうまく合わせながら自分のやりたいことを見つけ、チャンスを逃さず少しずつ実現していった自分の頑張りであるという自負心も忘れてはいません。「あの時あの人がこう言われなかったら」、とふりかえることもあります。それ以上に「あの時こう決断してよかった」と思うことのほうが多くなるよう意識しているのです。

今この記事を読んでくださっている皆さんの中にも、西日本と東京を往来しながら活躍されている方は多いと思われる。また、これから経験を積み、自由自在に全国をまたにかける技術者を目指す若者もあふれていることでしょう。同じ西日本の仲間として、私の経験が何かお役にたてれば幸いです。またどこかでお会いしましょう!

### Profile プロフィール



株式会社永和システムマネジメント  
**岡島幸男**  
OKAJIMA Yukio

1971年福井県生まれ。同志社大学経済学部卒業後、株式会社永和システムマネジメントに入社。2003年よりサービスプロバイディング事業部にてSI業務を担当。現在は複数のプロジェクトチームをマネジメントし、福井と東京を往復する日々を過ごしている。趣味はクワガタのブリード。著書に『ソフトウェア開発を成功させるチームビルディング』(ソフトバンククリエイティブ)。『受託開発の極意—変化はあなたから始まる。現場から学ぶ実践手法』(技術評論社)他。

#### ブログ

<http://d.hatena.ne.jp/HappymanOkajima/>

#### twitter

[https://twitter.com/okajima\\_yukio/](https://twitter.com/okajima_yukio/)

# プロジェクトマネージャー・リーダーのための「援助技術論」

ほそたに(や)

HOSOTANI (YA)

最近、ソフトウェアに関するイベントで「傾聴」「受容」という言葉を耳にしました。

リーダーやSEPG (Software Engineering Process Group) のような役割は、相手を支援するという性格を持っています。

支援を成功させるためには、相手からの信頼を得ることが必要であることから「傾聴」「受容」というような行動が注目されているのだと思います。

実はこれらの言葉はずっと昔からケースワークの分野で使われているものです。

その分野における価値、原則を示した代表的な書籍が50年以上前に出版されたF・P・バイステックの『ケースワークの原則』です。

リーダーとメンバー、SEPGとリーダーやメンバーの間にも一種の援助関係が存在すると筆者は考えています。

## 「援助関係」とは？

『ケースワークの原則』の前半は、援助関係について書かれています。人間同士は親子、友人、夫婦などの人間関係によって結ばれています。援助者と援助対象者の間は援助関係という人間関係で結ばれる必要があります。バイステックは援助関係について「ケースワーカーとクライアントのあいだで生まれる態度と情緒による力動的（原文ではdynamic）な相互作用である。そして、この援助関係は、クライアントが彼と環境とのあいだによりよい適応を実現していく過程を援助する目的をもって」と述べています。

ここで、貴方は会社からあるプロジェクトを立て直すための支援を命じられたとします。貴方が会社から与えられた立場と権限を前面に出してプロジェクトに関与したとしても本当の意味での支援はうまくいかないでしょう。支援を成功させるためには、メンバーに「この人は私を支援してくれる人だ」と思われるような関係を築くことが大切です。このような関係が援助関係なのです。

援助関係は、お互いの「態度」や「情緒」に強く依存します。「態度」「情緒」はお互いが接している限り変化し続けるため、援助関係はダイナミックな関係であると言えます。援助関係を構築した後も、維持する努力が必要です。援助とは、援助関係を構築し維持していくことそのものだとバイステックは述べています。

## 援助関係を築くための「7つの原則」

バイステックは援助関係を構築するための7つの原則を述べています。

- 1.クライアントを個人として捉える
- 2.クライアントの感情表現を大切に  
する
- 3.援助者は自分の感情を自覚して吟味する
- 4.受けとめる（受容）
- 5.クライアントを一方向的に非難しない（非審判的態度）
- 6.クライアントの自己決定を促して尊重する
- 7.秘密を保持して信頼感を醸成する

原則4の「受容」や原則5の「非審判的態度」と同様のことを、リーダーやSEPGとして支援を成功させている人の多くが述べています。その他の原則も人が人を支援する上で良い指針となります。

## 人が中心のソフトウェアと援助技術

筆者はバイステックが述べている援助関係性は、そのまま会社の上司・部下、プロジェクトリーダーとメンバー、SEPGと現場担当者に必要な関係性のひとつであると感じています。役目上の関係だけでは実際の援助（支援）を成功させることはできません。関係性を構築するための努力が必要です。この

関係性を構築するためにバイステックが挙げている原則は、私達ソフトウェアエンジニアにとっても、たくさんの気付きを与えてくれるでしょう。これらの原則が50年以上前に述べられており、未だケースワークを学ぶ人の必須の知識として教えられているという事実があります。人が大きく関わるソフトウェア開発に携わっている私達は、対人支援の技術についても学び始めるべきではないでしょうか。

### 参考文献

『ケースワークの原則—援助関係を形成する技法新訳改訂版』F・P・バイステック著、尾崎新・福田俊子・原田和幸訳、誠信書房、ISBN-13: 978-4414604047

## Profile プロフィール



ほそたに(や)  
HOSOTANI (YA)

XPJUG関西にて関西でアジャイル開発を広める活動をしている。XPの価値、原則、プラ

クティスという構造が、ソーシャルワーカーの倫理綱領の構造と類似していることを知り興味を持ったことが今回の記事のきっかけになった。

監修

ほそたに(あ)

社会福祉士。ほそたに(や)に巻き込まれ本記事の監修をすることに。

# ほそたに(あ) 直伝! ITエンジニアのためのアロマ講座

ほそたに(あ)  
HOSOTANI (A)

「ストレス溜まってんなあ」

それがエンジニアではない私が見る、私を知るエンジニアの皆さんに対する感想です。

聞くお話からイメージするに、毎日朝から晩までモニターの中の文字と戦ったり、噛み合わない会議をされているのでしょうか。

それともいろいろな人間関係の中で板ばさみに苦しんでいるのでしょうか。

そんな皆さんのために、この記事ではストレスを軽減するためのひとつの方法として「アロマ」をご紹介します。

## で、「アロマ」って何なの?

最近いろいろなものに「アロマ」という言葉が使われていますが、皆さんは何を想像されたでしょうか。芳香剤?柔軟剤?それともコーヒーの香りでしょうか。「アロマ=aroma、芳香」なので、どれも間違いではありません。

が、私がここで言う「アロマ」とは、「アロマセラピー(芳香療法)」のことを指します。簡単に言えば植物の天然の「香り」=「精油」を用いた自然療法のことです。「精油」とは、植物から抽出した100%天然で純粋な、有効成分を多く含む芳香物質のことです。そしてこの「天然の香り」が重要なのです。

## たかが「香り」、されど「香り」

さて、少し逸れますが、その重要な「香り」はどこで感じるのでしょうか。実は鼻から、なんと脳へ『電気信号』として送られるのです。香りは脳で感じているということになります。くどいようですが、「良い香り」「悪い香り(におい?)」は直接脳に影響を与えることとなります。

少し難しくなりますが、この香りを感じる脳の部分は脳旧皮質という最も根源的なところにあって、これは視床下部というところに勝手に影響を与えます。視床下部は生命維持の中核とされており、代謝機能や体温調節機能、心臓血管機能、内分泌機能、性機能などを司っています。つまり「香り」は、人間の心身全てに影響を与えるという

ことなのです。そのため「香り」は、あくまで「天然の香り」であることが重要なのです。実際にアロマセラピーは、ヨーロッパ、たとえばイギリスの赤十字病院や国立病院、陸軍病院などで代替医療として不眠症の治療などに用いられています。

## つまりは

この脳に直接働きかける正しい「天然の香り」を日頃からうまく使うことができれば、心身のバランスを保つよう促すことができ『予防医療』としての「アロマセラピー」を誰もが簡単に行うことができることになります。アロマポットとか、道具がなくとも大丈夫。ただティッシュに1~2滴垂らすだけでOK。ポイントはしっかりと香りを感じること。これなら誰でもどこでもできます。

後はお風呂に3~5滴入れる。シャワーだけでなく、お風呂に入ることでも血行も良くなるので冷えや肩こり、むくみにも効果的です(※直接湯船に入れる際は柑橘系等皮膚刺激を起こす精油があるので注意しましょう)。

## 私のお気に入り

例えば、私が気に入っている精油は『伊予甘(いよかん)』です。いよかんは皆さんご存じのみかんの一種です。この精油は、愛媛県の宇和島でジュースとして使われた果肉を再利用して、果皮を水蒸気蒸留法という方法で抽出

したものです。つまりは国産精油。私はこれをお湯を入れた陶器のマグカップに1滴入れて部屋の離れたところに放置しています(間違っただけ飲まないように!精油は飲んじゃだめですよ!!)。

「良い香り」「嫌な香り」は人それぞれです。この記事をきっかけにご自身が心地良いと感じる香りを探していただけたら幸いです。



## Profile プロフィール



ほそたに(あ)  
HOSOTANI (A)

社会福祉士、ソーシャルアロマセラピスト。家族の立場からITエンジニアを日々観察中。ITエンジニアとパートナーのためのアロマ講座を企画中。アロマの相談があればayano.hosotani@gmail.comまで。

監修  
aroma shop 植物セラピー alo-alo  
辻 朝恵

# 要求開発で企業改革って、何やってるんやろか?

虎パン  
TORA Pan

西日本エリアで先進的な「要求開発による企業改革」に取り組んでいる株式会社大阪エヌデーエス (<http://www.nds-osk.co.jp/>) さんに、虎パンがインタビュー! 何かスゴそうだから実態を知りたい! 果たしてどんな結果になるのやら。



虎パン:まいど!うち「虎パン」言います。じゃあ早速で悪いけど、インタビュー始めるでえ。

金谷:はじめまして。大阪エヌデーエスの金谷です。よろしくをお願いします。

虎パン:大阪エヌデーエスはんは要求開発に取り組んでるって聞いたけど、何で要求開発なんやろ?

## 要求開発には「考える技術」がある

金谷:私達の会社は今まで大手SIerさんから下請的に開発作業を依頼されることが中心で、作る技術を武器にしてきました。ところが、今あるものを「使う」時代に、「作る技術だけ」をやっているいいだろうか? 「作る技術」は必要だけど、「考える技術」がより必要になるだろうと思っています。

虎パン:要求開発には「考える技術」ちゅうのがあるんかあ。「考える技術」ちゅうのはどんなんやろか?ビジネス指向とかそんなんやろか。

金谷:漠然と考えるのはすごく難しいですが、「考えるための観点」であったり、要求開発で言うと「トップの視点」とか、「現場の視点」とか、「ITの視点」の視点で考える「考え方」であったり、AsIs (現状)、ToBe (将来像) のように現状目指すべきものの中から考えていくための「物事を本質的に見ていくためのアプローチ」ですね。人間工学っていうのも変ですが、考える技術とか、考える工学が世間にはあまりないのでと思っています。

虎パン:確かに考える技術ちゅうと、ビジネスコンサルや書籍で紹介しているMECEとかマーケティングの4PとかSWOTのフレームワークがあるんやけど、それらは「分ける技術」で新しいことを「描く技術」ではあらへん気いすんあ。

金谷:分析したり整理したりというのは、

現状でしかありません。そこから新たに作り出すとか、認識できていない部分を新たに認識するのは「こうなるのでは」を描いていくという技術。これがこれから必要になっていくのではと思っています。

## 要求開発で企業開発

虎パン:要求開発で企業開発をやってるんやなあ。実際にどないなコトやってるんやろか?

金谷:ブランディングやビジネスでの展開、教育を行っています。意識改革、業務改革、新たなビジネスの創出とかをやっています。

虎パン:すごそうやなあ。大阪エヌデーエスはんは要求開発を始めて、会社とか社員はどう変わったんやろか?

金谷:一番変わったことは、「今のままでは駄目なんだ。変わらないといけない」という意識だと思います。要求開発でいう「覚悟」を持てたので、本当に「自分たちがやらなきゃいけない」ということを意識し始めました。

## 要求開発で組込製品開発を!

虎パン:なるほどなあ。具体的に大阪エヌデーエスはんはどないな企画を考えてるんやろか?

金谷:要求開発はビジネス系での活用は進んでいるので、これを何とか組込の製品開発に活かしていけないかなと思っています。

虎パン:組込の要求開発をやる時の可能性と難しさにはどんなんがあるんやろか?

金谷:そうですね。メーカーさんは部分最適を最善としてきている組織作りをしていることが多いと思います。要求開発ではトータル的にどう見えるかということを表示し

ていきます。その部分の流れが逆なので難しいというイメージがありますね。そういうアプローチは過去あまりなかったと思うので、業界に対する新たな提案になるんじゃないかと思っています。

虎パン:そういう情報発信とかは、今後要求開発アライアンス(<http://www.openthology.org/>) としていくんやろか?

金谷:そうですね。要求開発アライアンスはもちろんだし、組込関係の中でもエンベデッド・テクノロジーとか組込展とかがあるので、何か出していければいいなと思っています。

虎パン:もちろんEM WESTでも発表してな!

金谷:それはもちろんです (笑)。

今日はちょっとだけだけど、大阪エヌデーエスさんの要求開発による企業改革の取り組みを聞いてみました。このインタビューの完全版は下記のURLで楽しめるので、皆さんも是非見てくださいね。

[http://www.nds-tyo.co.jp/takumi/takumi\\_top.html](http://www.nds-tyo.co.jp/takumi/takumi_top.html)

## Profile プロフィール



EM WEST編集部  
虎パン  
TORA Pan

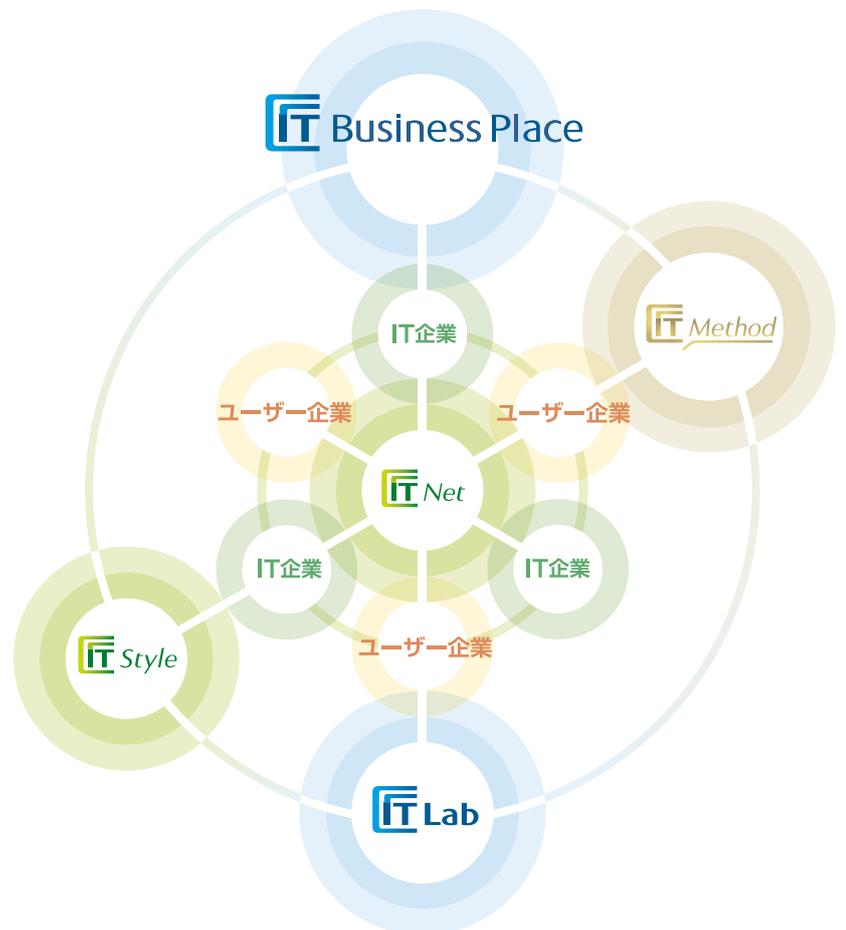
EM WESTの(一応)編集員(らしい)。見た目からしてたぶん阪神タイガースファンだが、詳細は不明(というか次号までに考える、汗)。

# ITエンジニアとして培ったアナロジーを ビジネスの見える化まで拡張した 匠メソッドを提供する。

要求開発をベースとするビジネス開発・システム開発方法論

<http://www.takumi-method.biz>

匠には誰もがなれるわけではない  
しかし、匠を目指そうとするものだけに  
その権利は与えられる。



 Business Place

株式会社 匠ビジネスプレイス

<http://www.takumi-businessplace.co.jp>



# Housework Facilitation のススメ



データプロセス株式会社  
東 秀和  
HIGASHI Hidekazu

さて、はじめに皆さんに質問です。

## 「あなたは、家事をしていますか？」

家事は人が生きていく限り一生続いていく「家の仕事」です。たいていの夫婦では共働きか専業かに関わらず、多くが暗黙的に妻の仕事になっています。しかし、夫婦間で必ず話し合うべきテーマがこの「家事」についてではないでしょうか。ちなみに家事は夫婦の揉め事のベスト5に入っています。

私は結婚してもうすぐ10年になります。妻は専業主婦です。育児、料理、選択、掃除、やりくり、etc…、すべての家事をやってくれています。土日関係なくいつもやってくれているので、私もできるだけ家事を手伝うようにしています。

## 『家事』 = 『家族の仕事』

私は家事を、「家族が家で行う仕事」として定義しています。遠く昔は陽が昇れば、各々が家族を養うための仕事をし、夕方陽が沈めば父親が子どもを風呂に入れ、その間に母親が夕飯の仕度をする。それぞれが力を合わせていたんだと思います。家族が生活していくこと、そのすべての家族の仕事が家事と呼べる時代だったのではないのでしょうか。

しかし、時代が経つにつれ、夫が自宅から遠く離れた勤務先に仕事に出かけ、妻が家を守るというスタイルに変わり、男が外で仕事、女は家事といった構図ができたのだと思います。家族の仕事は愛情エネルギーを使うやりが

いのある仕事ですが、体力は使うし外の仕事から帰宅すればねぎらいの中で休みたくなるのは誰だって同じです。結果、男は家事がおっくうになってしまします。

そんな家事を、相互にファシリテートすることで分担し、2人の時間を増やす考え方を紹介します。

## 夫は『家事』のプロではない

多くの男性は家事が苦手ですが、実は男性もいろいろと上手にできるはずです。料理の例を見ればホテルの料理長や料亭の板前さんなどはほとんどが男性ですし、できないわけではないのです。

しかし、多くの夫は外での仕事を持っています。私もソフトウェア開発の仕事をしています。結婚してから家事を主な仕事としてやってきた妻にかなうはずありません。やっていたとしても平日なら朝晩、後は土日しか機会がないので経験の差は明らかです。夫をファシリテートするなら、妻はまずこのことを認識しなければなりません。

## 家事の要請は 新人教育のようなもの

夫に家事をしてもらう時は、仕事は何もわからない新入社員に依頼するように、「私は洗濯機を回して乾燥機に入れるのと干すのをやるから、食器を洗って拭いて棚にしまうのをやってね」というように、できるだけ具体的にしたほうが夫からすると手伝いやすいです。し妻にとっても結果的には効率が良く

なります。夫も家族が気持ち良く家で過ごすための仕事だと感じられれば進んで担当できます。こういう時、夫は入社してで仕事ができなかった頃の自分の気持ちを思い出し、微笑ましく思うかもしれません。

## 怒らない。ほめるとパワーアップする家事の能力

なにせ新人のやることですから、上手にできないのはある程度見逃してください。やったことに対しては、ある程度は怒らずに「ちょっと食器に汚れが残っていたから、そこだけきれいにしておいたからね」と言うと、こちら気持ち良く「ごめんね。ありがとう」と言えます。

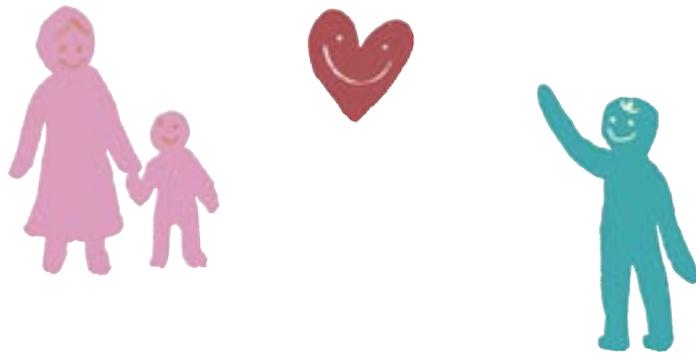
「汚れてたよ。ちゃんときれいにやってよ。もう！」と一度でも怒ってしまうと、夫からすれば「せっかく手伝ってやったのに、文句を言うんだったらもう手伝わない！」となります。やって怒られるのなら、やらなくて怒られるほうが楽だからです。

私の会社の仕事にたとえると、「この間作ってもらったプログラムのバグがあったけど、直したらすぐに使えたから助かったよ」と言われるのと、「バグがあったよ。困るな」とか、「バグがあったから、作り直したよ」とでは、相手への印象も違いますし、次回からの対応も違ってくるのではないのでしょうか。

山本五十六の言葉ですが、

**「やってみせ、言って聞かせて、させてみせ、ほめてやらねば、人は動かじ」**

が大事だと思います。



## お出かけひとつでも 段取りが大事

さて、今度は夫からの視点で見ると、会社で無駄な作業プロセスを観察し全体最適化を心がけているせいか、家のことも効率良くできるのではないかと考えることがあります。おそらく、このような考え方ができると、妻より効率的にできると思っています。ただし、仕事っぽく言うと妻がへそを曲げるので、それとわからないようにファシリテートしつつ作業の効率アップをはかることを心がけています。

例えば、家族でのお出かけの作業を簡単に洗い出してみるとこのような作業で構成されています。

- ・洗濯物を入れる→洗濯→洗濯を干す
- ・朝食の後片付け→洗い物
- ・布団をたたむ
- ・お風呂掃除

- ・子供の歯磨き→子供の顔を洗う→子供の着替え
- ・妻のお化粧→着替え
- ・私の髭剃り→着替え
- ・お出かけの準備
- ・お弁当(おやつ?)の準備
- ・トイレ(各自) & オムツの取り替え

ソフトウェア開発の作業に似たところだと、『子供の気まぐれ』のおかげで予定通りに終わらない作業が多く、さらに女性特有の『お化粧』という作業もあります。これらの不確実性の高い作業や、手助けができないし省くこともできないクリティカルな箇所に着眼し、この制約に他の作業を従属させることですべての作業の全体最適化が図れます。

## Live a Meaningful Life

もし次回があれば、我が家での段取

り術を披露したいと思います。

最後に、いつも家族が気持ち良く家で過ごすための仕事をしてきている妻に感謝したいと思います。

『Live a Meaningful Life』。仕事だけではなく、意義のある人生のためにパートナーと助けあっていきましょう。

## Profile プロフィール



データプロセス  
株式会社  
**東 秀和**  
HIGASHI Hidekazu

はっさくの名産地、  
因島の出身。家族  
をこよなく愛する

エンジニア。『はっさく』という名前でプロジェクトマネジメント系のコミュニティに出没中。現在、大手広告代理店向けにシステムの企画、開発、保守を行うプロデューサー兼エンジニア。新たな分野に日夜奮闘しております。

<http://twitter.com/oyukun>

# データプロセス(株)

最先端を創出する フィールドの広さ

**D** DATA  
PROCESS  
<http://www.odp.co.jp>



# 西日本 コミュニティ巡り



## 「PFPPQ」のご紹介

### ゆるくて アットホーム

**P**PFPPQ (Project Facilitation Project 九州) コミュニティは2008年に立ち上がりました。それまで関東・関西・札幌の3拠点を中心に開催されていたPFPPワークショップに参加したメンバーが、ぜひ九州でも!と思ったのがきっかけでした。スタッフは10名弱。コミュニティの運営経験がない人がほとんどだったので、当初はフワフワと迷い気味でしたし、妙に気張りすぎた時期もありました。しかし、他拠点スタッフの助言も頂きながら、これまで4回のイベントを重ねてきました。

本間直人さんや平鍋健児さんらを講師に迎えて大人数で勉強したり、小じんまりとしたカフェでビール片手に議論したりと、バリエーションを織り交ぜながら活動しています。コミュニティ

形態への模索は今でも続いています。少なくとも自分達が「これでいいんだ」と信じていることができる、私達なりのスタイルやカラーは見えてきた気がしています。

コミュニティの特徴を挙げるなら、「九州全域と広範囲」「業種が豊富」「(好い意味で)ゆるくてアットホーム」ということでしょうか。たとえば大分のワークショップでは、別府温泉の公民館で畳の上に座布団を敷いてワイワイ議論。プレゼンがテーマだった回は、始めから勉強会と交流会を合体させ、お惣菜の買い出しからスタートしてビール乾杯と同時にプレゼン開始。どんなに酔っ払ってゆるゆるな状況になっても、ちゃんと最後にはKPTでふりかえり、明日へのヒントに繋がっています。

PFPPQの活動を通じてわかったこと。それは業種や立場が違えど、抱えている悩みは同じだということです。スムーズに楽しく、質の良い仕事をしていくために他でトライしている良いことがあればそのヒントをもらいたい。自分



の会社にばかり閉じてもってはいは、改善策も煮詰まってしまう。自らの思考を外界へと繋ぐロープとして、私達にとってPFPPQは大切な存在となっています。

「周りを巻き込みワイワイと」と「こじんまりアットホームに」の2パターンで、これからも私達らしく、おおらかに活動していきたいと思います。

### Profile プロフィール



尾崎亜由美  
OZAKI Ayumi

メーカー勤務。組み込みソフト設計をかじった後、Webアプリケーション開発でアジャイルにトライ、2004年より専任SEPGとなる。JASPIC主催SEPG JAPAN 2004 / SPI JAPAN 2006に登壇。会社では走り回っているが、家に帰ると即スイッチが切れ、中国茶をすすりながら、ひなたぼっこにいそむ。



## みんなで議論して 勉強する

**T**EFのメーリングリストにて、なんだか東のほうで盛り上がっていた勉強会開催に対抗して、関西でも勉強会を立ち上げてみました。TEF関西勉強会、愛称を「てふかん」として、2006年10月より活動を始めました。「偉い人のお話を聞く」ではなく、「みんなで議論して勉強する」という姿勢で取り組んでいます。

現在は、書籍『基本から学ぶソフトウェアテスト』（日経BP社）の輪読会を行い、各自の疑問や感想を発表しています。他のコミュニティやツールベンダーさんの協力を得てセミナー会なども開きました。まずは、同好会のノリで始めて、オフ会ならではの活発な意見交換を基本として、企画をしています！

## Pirates of SETOUCHI

**2009年春**、筆者が3年ほどの単身赴任を終えて東京から岡山に姿を消すのを待っていたかのように、東京で「すくすくスクラム」という真面目なふざけているんだかよくわからない名前の勉強会を立ち上げて開催している男達がいる。彼らの一部はその後、海賊化してシカゴで開催されたAgile Conference 2009 (<http://agile2009.agilealliance.org/>) というアジャイラーの祭典にまで突撃して大暴れ。すくすくスクラムも着実に回数を重ね、国内外にその存在が知れ渡るようになった。

しかし、ちょっと待て！東京に海賊は似合わない。確かに品川に行けばポート・オブ・パイレーツがある。だが、日本で海賊と言えば、大三島の三島水軍をはじめとする瀬戸内水軍の伝統を持つ瀬戸内海ではないか！いつしか筆者の頭の中には、その海賊団の中心人物の1人と目されるebacky氏を瀬戸内に引っ張り出す作戦がぐるぐると鳴門の渦潮のごとく渦巻き始めたのである。

具体的に働きかけたのが、2009年の秋頃。一度は12月にすくすくスクラムのebacky氏と謀議を計り、同じくすくすくスクラムでも活動するEmerson Mills氏も呼んで岡山でアジャイル系のイベントを企画しようとした。残念ながらその企画は諸事情により断念したのだがさすがに海賊はあきらめない。しばらくして、「なんかやらない？」という話が再燃し、生まれたのが「すくすくスクラム瀬戸内」である。

「関西」とか「西日本」と名付けてもよかつ

たのだが、そうするとどうしても拠点が大阪に引っ張られる。我々は、東京でも大阪でもないところを拠点として活動することに意味があると感じた。

地域で活動する最大のメリットは、「東京ローカルの活動では見えてこないモノやコト」に気づくことである。そして、それを自分の生活する「地域」の活性化に役立てることである。「地域」という捉え方は、自分と自分が大切にしている人達を中心に置く。中央とか東京に対する概念としての「地方」では決してない。

すくすくスクラム瀬戸内とは一言で言うと、「瀬戸内エリアを中心に、アジャイル・ソフトウェア開発手法のひとつであるスクラムの様々なプラクティスを体験・研究しながら、現場を改善できそうなヒントを探す事を目的とした勉強会」である。より詳しい話は、マイクロソフトの「アジャイル開発支援サイト」(※1)に紹介記事を寄稿しているのでそちらも参照されたい。

本稿執筆時点では、まだ出航に向けて海賊船を建造中である。当面は2010年2月5日に第1回、そして3月には第2回のイベントを開催する予定だ。その後も継続的に岡山（あるいは瀬戸内の他の都市）を拠点として勉強会を開催していきたいと考えている。イベント予定については、マイクロソフトの「アジャイル開発支援サイト」やGoogleグループ(※2)などで随時発信していくのでお見逃しなく。

あなたも是非、一緒に盛り上がりませんか？まずはGoogleグループにご参加を！

### 参考サイト

- ※1) マイクロソフトの  
アジャイル開発支援サイト  
<http://www.microsoft.com/japan/powerpro/developer/agile/default.mspx>
- ※2) 「すくすくスクラム瀬戸内」  
Googleグループ  
[http://groups.google.co.jp/group/Scrum\\_SETOUCHI?hl=ja](http://groups.google.co.jp/group/Scrum_SETOUCHI?hl=ja)

### Profile プロフィール



#### 前川哲次

MAEGAWA Tetsuji

大手Sier勤務を経て、ユーザ系企業の情報システム部門や情報システム子会社にて企画やプロジェクト管理、品質管理・標準化などに従事。要求開発アライアンスおよび要求開発アライアンス西日本でも活動し、要求開発方法論Openthologyとスクラムを組み合わせたシステム開発を日々模索している。認定スクラムマスター。

## EM WESTテーマ曲#1

僕の心はEngineer  
僕の生まれは西国  
二人合わせてEM WEST  
君と僕とでEM WEST

by れっどさん (@ledsun)

## EM WESTテーマ曲#2

(『想いよとどけ~EM WESTに捧ぐ歌~』)

月は西に 陽は東に  
そして今日が始まる

君のために 僕のために  
WESTはあるから

忘れるはずもない 今日はその日  
新しい自分に 出会うために

誰も知らない 未来なんて  
でもなんだか わくわくして  
駆け出したくなる

右にWEST 左に定期  
楽しみはこれから  
出会い 語り 気づき 学び  
それが生きていく意味

想いは響き 共鳴してく  
熱い胸の高鳴り  
同じ気持ち 感じたなら  
言葉はもういらぬ

立ち止まることはない できるはずもない  
僕はエンジニアで 僕は生きてる

あの日君が 伝えてくれた  
想いだとか情熱を  
僕は次につなぐ

心は一つ 東も西も  
関係はないけれど  
魂だけは 譲れないから  
僕は西から吠える

想いよとどけ 君にとどけ  
愛する仲間たちへ  
同じ気持ち 感じたなら  
言葉はもういらぬ

東ののぐぼん 西のてつ。  
それは嵐の予感  
想定不能 限界はない  
「何か」が生まれてく

想いは響き 共鳴してく  
熱い胸の高鳴り  
同じ気持ち 感じたなら  
言葉はもういらぬ

言葉はもういらぬ

嗚呼 EM WEST

by 侍塊s (2010) <http://katamaris.jp/>

1. Dear XP - [XPJUG]XP祭り2006 オフィシャルテーマソング  
2. ざっつとざつと♪ - [理泳社]DevelopersSummit2007 オフィシャルテーマソング  
3. XP音頭 - [XPJUG]XP祭り2007 オフィシャルテーマソング  
4. Develop - [理泳社]DevelopersSummit2008 オフィシャルテーマソング  
5. 約束 - [技術評論社]EngineerMind Vol.9 タイアップ曲  
6. たまり場 - [ManasLink]EM ZERO オフィシャルテーマソングにして欲しいソング  
7. Dear XP (English & Duet Version) \*  
8. 先送り (DEMO Version) \*

EM WEST [イーエム・ウエスト] Vol.0

2010年2月5日発行

デザイン: ミヤムラナオミ

編集長: てつ。  
副編集長: はっさく  
編集: ほそたに (や)、なおまる  
編集協力: EM ZERO編集部

発行元: 株式会社マナスリンク  
〒162-0012  
東京都中野区本町4-48-17-803  
<http://www.manaslink.com/>  
お問い合わせ先: [contact@manaslink.com](mailto:contact@manaslink.com)

印刷所: 昭栄印刷株式会社  
<http://www.shoei-p.net/>

Copyright ManasLink  
Printed in Japan

  
ManasLink